

商店街サミットを開催！



2月5日(金)、秋田市の「秋田ビューホテル」において、本会に事務局を置いている秋田県商店街振興組合連合会(14会員、平澤孝夫理事長)の主催による「商店街サミット」が開催された。同サミットでは、「西武秋田店の経営戦略について～地元商店街との共栄について」と題して、そごう大宮店の森田岳史店長(西武秋田店前店長)による基調講演が行われた他、「『地域コミュニティの担い手』としての商店街再生について」をテーマに県内外の先進商店街からパネリストを招き、それぞれの事例紹介や意見交換等のパネルディスカッションが行われた。主な発言要旨は次のとおり。

基調講演(森田氏)

- 全国的に百貨店を取り巻く環境は厳しいが、百貨店が地域にとって無くてはならないものになっていないことに要因がある。(全国において昨年度増収となった百貨店はわずか12店舗。西武秋田店はそのうちの一つ。)
- 節約を意識している消費者は依然として多いが、贅沢なお金の使い方をする人が増えており、「メリハリ消費」が増加している。
- 「何でも売っている」では売れない時代であり、客層をリアルに捉える必要がある。秋田店では30代と50代に的を絞り、さらに、50代であれば①公務員・教員等、②パート従業員等、③専業主婦の3層に区分している他、PTAやお盆時期の同級会、老人会等の行事を徹底的に調べて、それに合わせた品揃えを細かく行っている。
- 社員は販売した際に売れた理由をメモし、それに対して店長からもフィードバックし、次の一手に生かす取り組みを行っている。1週間に700枚ものメモが提出されており、従業員が気づいたことを現場に反映させることで、社員の自発的意識の向上にもつながっている。



講演する森田店長

パネルディスカッション

コーディネーター：平澤孝夫理事長

パネリスト：

- ①埼玉県アポポ商店街振興組合 松井秀男専務理事
- ②岐阜県商店街振興組合連合会 武藤文宏事務局長
- ③大館市大町商店街振興組合 横井伸一理事長

○「地域コミュニティの担い手」としての商店街の再生について

- － 行政や大学、大型店と一緒に活動して行くことが、これからの方向性である。(松井氏)
- － 何をやるにしてもNPOや地域住民等の力を借りて一緒に行動する必要がある。(武藤氏)
- － 高齢化の進行に伴って、近場で買い物がしたいという欲求が高まっているが、そうした売り場が減少しており、商業者としての責任を感じている。(横井氏)

○商店街組織活性化のための方策は？

- － 組合への加入促進として、幹部による巡回訪問の他、若手経営者に音楽関係の催事を全て任せる等、活躍の場を与えている。(松井氏)
- － 商店街の活性化策は、人が様々な体験したり、楽しんだり出来る場をつくるなど、人が集まる仕組みがポイントである。(横井氏)

○行政との接点をどう構築しているか。

- － 常に商店街が活動してアピールしていくことで、行政からの支援も得られやすくなる。地域商店街活性化法の認定の影響か、最近は行政からの支援が非常に手厚くなっていることを感じている。(横井氏)